国史跡・重要文化財指定を記念して泉坂下遺跡

祝賀式典&記念シンポジウムを開催しました!



12月2日(土)、3日(日)に国史跡&重要文化財指定を記念した式典とシンポジウムを開催しました。参加者は約500人、市外・県外からの来場も多く、広く注目を集め、立ち見も出る大盛況となりました。

また、式典では、多くの来賓からのご祝辞をいただき、調査へ協力してくださった皆さんへ感謝状を贈呈しました。



式典挨拶 常陸大宮市長 三次 真一郎 **常陸大宮市は日本のメソポタミア**

那珂川と久慈川という大きな川に挟まれた 本市が豊かな歴史文化を育んできたことを、 古代メソポタミア文明に例えて挨拶しまし た。



泉坂下遺跡出土人面付土器 国重要文化財 愛称「いずみ」



記念講演 文化庁記念物課主任調査官 補電 佳男 氏 常陸大宮市を再葬墓研究の拠点に

再葬墓遺跡として国の史跡指定を受けたのは泉坂下遺跡が日本初であるので、整備や活用のやり方も前例が無く、難しい。地域・学校・行政皆で考えてアイディアを出し合ってほしいと話し、また、再葬墓研究センター設立の提案もいただきました。



上野小学校児童による発表

この遺跡をたくさんの人に知って欲しいずっと大切にしたい

泉坂下遺跡から歩いて数分の場所にある上野小学校の児童 4 人が、 遺跡について調べたことや、普段の活動、遺跡を通して学んだことを 発表しました。

市立上野小学校の展示

学区内にある泉坂下遺跡と出土品が国から史跡・重要文化財のW指定を受けたことを記念して、5,6年生が土器やポスターを作成しました。記念シンポジウムで展示・発表した後、学校内に展示しています。

今後も貴重な地域の資源である、泉坂下 遺跡を学校教育に取り入れていく予定です。







基調講演 明治大学文学部教授 石川 日出志 氏

再葬墓とは…?実は現代のお葬式と似ている

弥生時代研究の第一人者である、石川教授が「再葬墓」とはなにか、再葬墓が つくられた時代はどのような世界であったのかを、現代の例を引き合いに出しつ つ、考え方は今の私達とそう変わらないと話しました。



基調報告 1 ひたちなか市文化財調査事務所長 鈴木 素行氏 まさか本当に出るとは思いませんでした

最初の発掘調査を行った鈴木氏は、人面付土器が発掘された時の現場の驚きや 興奮の様子を交え、調査成果の報告をしました。



講演 1 国立歴史民俗博物館名誉教授 春成 秀爾 氏

私も再葬しました

様々な儀礼について研究している春成教授は、各地のお墓で見られる儀礼の痕跡を紹介しつつ、自分の一族のお墓を発掘調査・改葬した事例も紹介しました。



講演3 奈良大学文学部文化財学科教授 小林 青樹 氏 「いずみ」は仮面をかぶっている!?

土偶や人面付土器などの「顔」について研究している小林教授は、泉坂下遺跡 出土の「いずみ」の顔の側面からうしろまで続く突帯は仮面をつけている様子を 表しているのでは?と推論しました。



再葬墓の謎徹底討論!

「いずみ」は女か男か?当時の人は人面付土器のようなイレズミをしていたのか?なぜあの場所に再葬墓がつくられたのか?などなど…。再葬墓に関わる多くの謎を議題に上げ、講師の先生方が意見を出し合いました。

RAKU BALLET 創作バレエ公演

シンポジウム終了後、市文化センター大ホールで市内下檜沢在住の舞踊家 堀 馨予さんが泉坂下遺跡に着想 を得て創作したバレエ「いずみ」の公演が行われました。その幻想的な世界に多くの観客が魅了されていました。







広報 常陸大宮 4 平成30年1月号